

3. 幼児の言語の発達には知能との相関も高いが環境差も大きいことが判った。特に親と子の対話、ことば遊び、年長者やテレビ其他外部からの刺激について保育者の注意努力を要する面を幾つか見出した。(A)ことば遊びは子供の連想力その他頭の回転をよくし言語表現力を高める上に効果が多いのに、しりとり遊びや反対語遊びを知らない者が多数あった。(B)言葉の貧弱な子供には幼児語や幼児音が多い。(C)離島や大規模施設など年長児との対話の少ない所では言語発達は後れている。(D)小規模施設では年長児の悪いことばの影響が大きく、いじめられたり、抑圧されたりして情緒方面に悪い影響が見られた。

D-4 幼児の言語発達と環境について

山口大教育 ○森田 倭文
服部 京子

1. 子供の発達が環境の影響を強くうけることはよく知られているが、言語発達の面でどういう影響があるかを調べて見た。

2. 対象は次の6群から各4名を抽出した。1)両親が教育熱心な幼稚園児、2)両親共働きの保育園児、3)離島の保育園児、4)長期間療養生活をしている病児、5)年長児と同居している小規模施設児、6)年長児と別居している大規模施設児。実施は昭和43年6月—9月(一部11月)。一定項目についての対話や子供の質問その他録音したものを分析し、保育者の評価をきき、知能検査結果や社会成熟度等との相関関係を調べた。